

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆企業の不適切会計、25年度は12年ぶり低水準 監査機能強化で件数減

・東京商工リサーチは2025年度に不適切な会計や経理を公表した企業は前年度比48%減の35社だったと発表。12年ぶりに40社を下回った。不適切会計の開示件数は前年度比39%減の41件。内容別では経理や会計処理ミスなどの「誤り」が26件で最も多かった。役職員などの「着服横領」(8件)、売上げの過大計上などの「粉飾」(7件)が続いた。

◆転職は「生活リスク」、転職希望者の7割が敬遠 経済負担重く

・物価上昇や住宅費の高止まりが続くなか、転職は「キャリア上の経験」よりも「生活リスク」として受け止められ始めている。マイナビの調査によると、転職希望者の約7割が「転職がある会社で働きたくない」と回答した。特に20代では8割近くにのぼり、転職の有無は転職先選びの判断軸になっている。

◆フロン回収規制強化へ 環境省、家庭用エアコンで業者の罰則検討

・環境省はエアコンの冷媒に用いる温暖化ガスのフロン類の回収規制を強化する。家庭用エアコンで回収義務を負わない家電などの廃棄業者を義務の対象に加える。早ければ2027年の国会でのフロン排出抑制法の改正を検討する。フロンはオゾン層の破壊につながるとして国内外で使用が厳しく制限されている。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆白物家電出荷額、25年度3.8%増 記録的猛暑や補助金でエアコン好調

・日本電機工業会(JEMA)は2025年度の白物家電の国内出荷額が24年度比3.8%増の2兆6813億円だったと発表。記録的猛暑などからエアコンの出荷が好調だった。自治体の補助金効果も追い風になった。出荷額をけん引するルームエアコンの台数は6.5%増の1002万9000台だった。1000万台超えは20年度以来2度目。

◆東京製鉄が2カ月連続値上げ 5月全品種2～5%、原燃料高の転嫁急ぐ

・東京製鉄は5月契約分の鋼材価格を全品種引き上げると発表。全面値上げは約4年ぶりとなった4月契約に続いて2カ月連続で、上げ幅は品種により1トン3千～5千円(2～5%)。主原料の鉄スクラップが高騰する中、中東紛争によるエネルギー高を踏まえて価格転嫁を急ぐ。2カ月連続で全品種を値上げするのも4年ぶりとなる。

◆2025年度着工72.2万戸予測——建設投資見通し

・建設経済研究所と経済調査会は「建設経済モデルによる建設投資見通し」(2026年4月)を公表。住宅分野については2025年度を「省エネ基準適合義務化に伴う反動減」、2026年度を「反動解消による持ち直し」と整理。中東情勢などの地政学リスクは織り込まず。2025年度の新設住宅着工戸数は72.2万戸と、前年度比11.5%減の大幅減少と予測。

《 注目商品 》

■コロナ、年間給湯保温効率3.7のフルオートなどエコキュート

・「エコキュート」の2026年度モデル11機種を8月から発売。すべて「給湯省エネ2026事業」の補助対象。「フルオート」タイプに、省エネ基準達成率105%・年間給湯保温効率(JIS)3.7を実現、給湯省エネ2026事業の補助金加算要件の対象となる「アドバンス」をラインアップ。



■ミラタップ 高コスパなビルトイン冷蔵庫

・同社初となる家電ブランド「インヴィエラ」を立ち上げ、第1弾としてビルトイン冷蔵庫を発売。新商品の「インヴィエラビルトイン冷蔵庫」は、ノイズレスな外観と、一般家庭でも導入しやすい価格帯を両立。ミニマルデザインや生産の効率化により13万8000円(税込)～という価格を実現。



■シャープ、コンパクトな縦型洗濯機 上部の空間を収納スペースに

・コンパクトサイズの縦型全自動洗濯機を発売すると発表。ふたの折りたたみ位置などを調整し、洗濯機上部の空間を広く使えるようにした。ラックを活用して収納スペースにするなど有効活用できる。ふたを折りたたんで、高さは従来機より12.1センチメートル低い111.3センチメートルに。

